



Walk with Children

めぐろ



せいび

188 号  
2023 年 3 月

いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。

校長 シスター 小島 理恵

今年度は、学校の日常をできる限り取り戻し、様々な行事も安全を第一に考えつつ実施してまいりました。毎朝の検温をはじめ健康観察や合宿前の PCR 検査などへのご協力、また、様々な変更や決定した点などに対して、ご理解を示してくださった保護者の皆様のおかげで学校は無事に年度末を迎えることができます。教職員一同、心より感謝しております。

以前、「グリーンブック」という映画を見たことがあります。実話をもとに、黒人ジャズピアニストとイタリア系白人運転手の 2 人が旅を続けながら友情を深めていく姿を描いたとてもよい作品です。その中にこんなセリフがあります。

「何をするにも全力でやれ。仕事ときは仕事。笑うときは笑う。食うときは最後の食事だと思って食え。」

何事も全力で行うことは、その人の「やる気」にもかかっています。学習への「やる気」はもちろん大事ですが、心を耕すことに対する「やる気」はそれ以上に大切にしなければならないことだと思います。喜ぶときは思いきり喜び、祈るときは心を込め真剣に祈り、感謝する時は心の底から感謝する、そのような生き方ができれば素晴らしいと思います。子ども達はこの一年を通じて、そのように全力で過ごすことができたと思います。

4 月からの新しい一年も、神様の恵みが豊かにありますように、お祈りいたします。

一年間、本当にありがとうございました。

コネクション  
Conessione

～つながり～

あのやもめは乏しい中から、その持っている全てを投げ入れた。

マルコによる福音書 12 章 41-44 節

先日は、「四旬節愛の献金」へのご協力、ありがとうございました。

「献金」という行為は、ほぼ毎月やってくる「まごころ献金」をはじめ、目黒星美の子ども達にとって、身近で、誰かのためになっていると感じられる習慣かもしれません。習慣化されているからこそ、それがただの行為にならないように、折に触れて考える場を、教室や朝礼でもつことを大切にしています。卒業を控えた 6 年生が、このみことばを後輩たちのために選んだのも、その思いが 6 年生にしっかりと伝わっているからではないかと思えます。

子ども達にも、学校や家庭でいろいろな仕事があります。家庭では、家族の一員としての仕事やお手伝いなどの自分の役割。学校でも、日直や掃除当番、係や委員会の仕事などをがんばっている子達がいます。

お金持ちとやもめとで持っている財産が違ったように、出来栄や物事の大きさは、取り組む人によって違ったり得意不得意があったりします。それがどんなに小さくても、自分にできる精一杯のことを友達や家族の顔を思い浮かべ、「誰かのため」を思っていることが、より価値のあることだと教えてくださっているのではないのでしょうか。

一年間を終えようとしている今、仕事をつい忘れてしまったときや面倒だと思ってしまったときには、それが「誰かとつながっている」こと、そして自分が「誰かのために役立っている」ということを思い浮かべてほしいと思います。必ずそれが、自分自身の幸せになるからです。

## スキー合宿 6年生

空が高く肌寒い朝、校庭に集合した6年生の顔からは喜びがあふれていました。学校としては3年ぶりのスキー合宿です。現地ではレベル別に分かれて、指導員の先生から滑り方を教えてもらいました。スキーを通して努力する力を身に付けたり、友達同士の触れ合いを大切にしたりと、実りある4日間を過ごすことができました。卒業に向けてカウントダウンとなる6年生の、大切な思い出の1ページとなりました。



## 6年生を送る会 3月10日

3月10日、全校児童が協力して「6年生を送る会」が盛大にひらかれました。昨年度まで各教室で行っていましたが、今年度は6年生は体育館に集まってお祝いをすることができました。お世話になった6年生が喜んでくれるように…と心をこめて準備に励みました。



各委員会ごとのバラエティに富んだ発表、楽しく参加できました♪



1年生から5年生までが心をひとつにして、6年生への感謝の気持ちを表しました。体育館で行われた催しや校舎のかざりつけなど、6年生に想いが届くように伝えました。

各クラスごとに心をこめて作成した飾りつけ、思い出がよみがえります。